

令和2年度 ポニーの会 事業報告

1. はじめに

令和2年度はコロナ対策に追われた1年だった。緊急事態宣言のころには利用者さんに自宅待機のご協力をお願いしたこともあったが、その後も不安で通所できない利用者さんがおり収入的にはかなり影響を受けた。また、マスクや消毒液、フェイスシールドなど感染予防対策に必須の消耗品が不足している時にはたいへん苦慮したが、コロナ関連の助成金にはたいへん助けられた。助成金によってマスクや消毒液などの消耗品はもちろん、サーマルカメラ型体温計や微酸性電解水生成機を導入し、各部屋には次亜塩素酸噴霧器や空気清浄機を設置することができた。また、支援に必要なタブレットや電動自転車も導入することができ、おおいに活用させてもらった。イベントが中止となり楽しむ機会が減ってしまったが、手洗い・検温・消毒・密にならない等、利用者、職員共に新しい生活様式を受け入れ習慣となってきた。

昨年度はコンサルタントにアドバイスを受け人事制度を整備してきたが、今年度は主任副主任を交えて人事考課研修を行いトライアルとして実際に面談や評価を行った。また令和3年度の事業計画も、主任副主任が計画をたて施設運営にも若い職員が加わるようになった。

2. 令和2年度 事業計画に対する実績

(1) 各事業計画に対する定員

ポニーの家多機能（合計50人）	2020年4月1日以降
生活介護	34人
就労移行支援	6人
就労継続支援B型	10人

ポニーの家生活介護	2020年4月1日以降
生活介護	20人

ケアホーム夢未来（合計14人）	2020年4月1日以降
夢	7人
未来	7人

(2) 各種研修に参加

対面での研修参加が難しかったので、ズームによる研修に参加

- ・社会福祉法人中堅職員研修
- ・支援記録の書き方
- ・パシリテーション研修
- ・虐待防止研修

- ・施設長研修
- ・就労継続支援 B 型工賃向上計画研修
- ・コロナウイルス感染対策セミナー
- ・サービス管理責任者研修
- ・災害 BCP セミナー

対面での研修

- ・人事考課研修・・・主任副主任以上が参加
- ・脳卒中、認知症から推察する身体障害者への理解と対応
- ・虐待についての研修

(3) 各種会議

I.評議委員会	5/25 (書面議決)	7/7 (書面議決)	11/7	計 3 回
II.理事会	5/25 (書面議決)	7/7 (書面議決)	10/31 3/30	計 4 回
III.職員会議	4 月 5 月	密になるので中止		
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6 月 12 日より 16 時ホールにて出席職員全員で夕礼を行い情報共有を図ることとした。 ・ 6 月 23 日より全体朝礼後作業班ごとに朝礼を行い昨日の情報を確認した。 ・ 夕礼・朝礼の充実により、職員全体での会議を取りやめ、主任副主任会議を随時行うこととした。 			
IV.給食会議 (利用者による)		毎月 1 回		計 1 2 回
V.その他	ケアホーム担当者会議・厨房会議・運転手会議・利用者支援会議			随時

(4) 施設整備

- 5/11 AI サーマカメラハンデタイプ 購入
- 6/8 除菌・手洗い 微賛成電解水生成機設置
- 6/10 菓子製造部門 冷蔵庫買い替え設置
- 7/10 ケアホーム夢に洗濯機買い替え設置
- 7/22 クッキー部門にスーパーフリーザー設置
- 8/20 ノートパソコン購入
- 9/11 食品棟ランプ交換
- 11/20 ケアホーム夢未来に防犯カメラ設置
- 12/4 送迎車用キャラバン リース開始
- 1/20 ノートパソコン購入
- 1/28 旧棟女子トイレ修繕

3. 事業別活動報告

(1) ポニーの家多機能(定員 50 名)

新型コロナウイルス感染症予防のため授産事業が縮小され、利用者の作業に大幅な変更があった。4 月に発令された緊急事態宣言を受けて、ご家庭に送迎や在宅支援の協力を求めた。多い時で 15 名ほどの利

利用者への在宅支援(ご自宅への体調等の確認の電話)を行った。さらに、例年では開催されているイベント各種も新型コロナウイルスの影響から軒並み中止となり、利用者の施設外への社会参加の機会も大きく減少してしまった。しかし、数は少なかったが、施設内で楽しめるイベント(お楽しみ会・屋外音楽発表会)を企画・実施した。その際には利用者の表情も明るく、活気があった。そして、1月には当法人職員が新型コロナに感染した事により急遽、2日間の施設閉鎖を実施する。その間、濃厚接触者の恐れのある該当の利用者・職員にPCR検査を実施、利用者の自宅へ体調確認のための電話、その他関係機関との連絡を取り、施設再開後に向けて施設内の消毒作業を行った。施設再開後は、感染予防を徹底し、食事中のパーテーションの使用・歯磨きの中止等の対策を行った。また、令和2年度の実習生は、伊奈特別支援学校から3名、美浦特別支援学校から3名を受け入れた。実習期間を通して、様々な経験ができるように作業を組み立て、提供した。学生時代の友人と会える機会となり、利用者も実習生と共に作業ができるのを楽しみにしていた。

(2) ポニーの家生活介護(定員20名)

新型コロナウイルス感染症が収束しない中、例年通りの活動が満足に展開されなかった。それでも、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、他事業所を併用している利用者を受け入れ、通所先をポニーに一本化したことで感染リスクを軽減しつつ、ポニーでの通所日数も増えた。一般企業に勤めている利用者も、コロナ禍で仕事が満足に無い状態であったため、ポニーで受け入れることで居場所の提供と機能訓練により、身体機能の維持向上の機会を提供できた。

また、コロナにより活動に制限がかかる中、利用者の情緒の安定を図るため、作業の合間にドライブに出掛け、感染対策をしっかりと行いながら外の公園に行き身体を動かしてリフレッシュをしてきた。

今年度は機能訓練指導員(作業療法士・理学療法士・言語聴覚士)とより連携を図りながら、身体機能の維持向上だけでなく、専門的なアドバイスをもとに作業や生活においてその利用者の特性を踏まえ、各々の力を引き出すきっかけを作り出した。また、医療機関との連携においても機能訓練指導員・相談支援専門員と共にチーム一丸となり、専門的な観点からの意見や方向性を見出し、病院側と良好な関係を築き且つ利用者・家族が望む最良の方向性(服薬、福祉サービス等)を展開することが出来た。

(3) ケアホーム夢未来(定員14名)

ケアホーム夢未来でも新型コロナウイルスにより生活スタイルが変わった。自室以外では基本マスクの着用の徹底、食事もこれまではリビングで利用者同士会話を弾ませながら食べていたが、自室での食事となった。これまで以上にアルコール消毒もこまめに徹底していった。

夢では、1月に当法人職員が新型コロナウイルスに感染したためその職員と濃厚接触と判断された女性利用者(感染した職員とマスクを外した状態で同じ空間で飲食をしていた)は、感染拡大を防ぐために2週間ケアホームに滞在していただいた。その間、ポニーや自宅に帰宅せず夢棟から出られないため、利用者の気持ちが満たされるようテレビ電話など通信機器を活かして楽しく会話していった。

未来では、重症心身障害者の利用者を受け入れ、1ヶ月間支援していった。食事やトイレ、入浴など介助を要することや、てんかん発作の対応なども行ったため、宿直職員の身体介護の技術が向上していった。

(4) 相談支援事業所キャンディ

相談支援事業所キャンディでは、ポニーの家利用者 70 名、その他利用者 38 名、計 108 名の相談支援を担当した。令和 2 年下期も利用者さんの体調や生活にいろいろな変化があった。相談支援事業所キャンディでは、利用者さんがその変化に応じてその人らしい生活ができるよう支援を行なっている。情報提供、受診や事業所の見学への同行、事業所や行政や医療機関との連絡調整を行なった。

支援内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 訪問・電話による相談対応 ・ 福祉施設見学同行訪問 ・ ご本人・ご家族・関係機関との担当者会議の開催 ・ 通所施設・短期入所事業所の紹介、利用開始までの手続き支援 ・ 通所先変更のための手続き支援 ・ 居宅介護支援事業（ヘルパー、通院等介助）の利用日調整、利用開始手続き支援 ・ 訪問看護利用開始支援 ・ 要保護児童対策地域協議会会議への参加 ・ 通院同行 ・ 入院時の医療機関への情報提供 ・ 退院後の入所先調整 ・ 退院時の福祉タクシーの手配 ・ 補装具制作の支援 ・ 子ども引き取りに当たり安全に子育てできる環境の調整 ・ これまで日中の外出先のなかった方の通所開始支援（訪問支援から始め安定した通所につながった。） ・ その他緊急対応
連携した機関	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市役所（障害福祉課、社会福祉課、子育て支援課、高齢福祉課） ・ 児童相談所 ・ 保健センター ・ 障害福祉サービス事業所（通所施設、居宅介護事業所） ・ 地域包括支援センター ・ 介護保険事業所 ・ 生活困窮者自立支援事業（くらしサポート）事業所 ・ 医療機関（医師、理学療法士、相談員） ・ 訪問看護ステーション ・ 補装具業者